



※※2020年3月改訂（第3版）
※2019年4月改訂

ロイコトリエン受容体拮抗剤
気管支喘息治療剤

TMONC-C20

日本薬局方 モンテルカストナトリウムチュアブル錠

日本標準商品分類番号

モンテルカストチュアブル錠5mg「科研」

87449

Montelukast Sodium Chewable Tab.

貯 法
気密容器、遮光、室温保存 (開封後は、湿気を避けて保存すること)
使用期限
外箱に表示

承認番号	22900AMX00352000
薬価収載	2017年6月
販売開始	2017年6月

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

有効成分 (1錠中)	日本薬局方モンテルカストナトリウム (モンテルカストとして5mg)		
添加物	D-マンニトール、結晶セルロース、クロスカルメロース ナトリウム、ヒドロキシプロピルセルロース、トウモロ コシデンブ、ステアリン酸マグネシウム、三二酸化 鉄、精製ステビア抽出物、香料		
性状	うすい赤色の素錠		
外形		サイズ	識別コード
表面	裏面	側面	
			直径 9.6mm 厚さ 4.6mm 質量 300mg DK555 (包装表示)

※※

【効能・効果】

気管支喘息

【用法・用量】

通常、6歳以上の小児にはモンテルカストとして5mgを1日1回
就寝前に経口投与する。

＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

- 本剤は、口中で溶かすか、噛み砕いて服用すること。
- モンテルカストチュアブル錠はモンテルカストフィルム
コーティング錠及びモンテルカスト口腔内崩壊錠と生物
学的に同等ではないため、モンテルカストチュアブル錠
5mgとモンテルカストフィルムコーティング錠5mg及び
モンテルカスト口腔内崩壊錠5mgをそれぞれ相互に代用
しないこと。

【使用上の注意】

1.重要な基本的注意

- 本剤は、喘息の悪化時ばかりでなく、喘息が良好にコン
トロールされている場合でも継続して服用するよう、患
者、保護者又はそれに代わり得る適切な者に十分説明し
ておくこと。
- 本剤は気管支拡張剤、ステロイド剤等と異なり、すで
に起こっている喘息発作を緩解する薬剤ではないので、こ
のことは患者、保護者又はそれに代わり得る適切な者に
十分説明しておく必要がある。
- 気管支喘息患者に本剤を投与中、大発作をみた場合は、気
管支拡張剤あるいはステロイド剤を投与する必要がある。
- 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によ
りステロイドの減量をはかる場合は十分な管理下で徐々
に行うこと。
- 本剤投与によりステロイド維持量を減量し得た患者で、本
剤の投与を中止する場合は、原疾患再発のおそれがある
ので注意すること。

(6)モンテルカスト製剤との因果関係は明らかではないが、う
つ病、自殺念慮、自殺及び攻撃的行動を含む精神症状が
報告されているので、患者の状態を十分に観察すること。
(「その他の注意」の項参照)

※(7)モンテルカスト製剤を含めロイコトリエン拮抗剤使用時に
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症様の血管炎を生じたとの
報告がある。これらの症状は、おおむね経口ステロイド
剤の減量・中止時に生じている。本剤使用時は、特に好
酸球数の推移及びびびれ、四肢脱力、発熱、関節痛、肺
の浸潤影等の血管炎症状に注意すること。

(8)本剤投与により効果が認められない場合には、漫然と長
期にわたり投与しないように注意すること。

2.相互作用

本剤は、主として薬物代謝酵素チトクロームP450(CYP)
2C8/2C9及び3A4で代謝される。

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノバルビター ル	本剤の作用が減弱す るおそれがある。	フェノバルビタールが CYP3A4を誘導し、 本剤の代謝が促進さ れる。

3.副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査
を実施していない。

(1)重大な副作用(以下、全て頻度不明)

1)アナフィラキシー

アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察
を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与
を中止し適切な処置を行うこと。

2)血管浮腫

血管浮腫があらわれることがあるので、観察を十分に
行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し
適切な処置を行うこと。

3)劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸

劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸があらわれること
があるので、観察を十分に行い、異常が認められた場
合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

**4)中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis :
TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、
多形紅斑**

中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑
があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異
常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行
うこと。

5)血小板減少

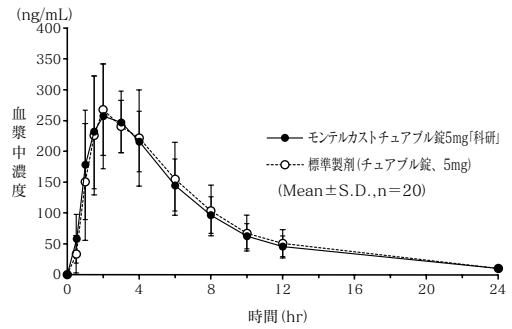
血小板減少(初期症状：紫斑、鼻出血、歯肉出血等の出
血傾向)があらわれることがあるので、このような症状
があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行
うこと。

(2)その他の副作用

次のような症状又は異常があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

分類	頻度	頻度不明
過敏症	皮疹、そう痒、蕁麻疹、肝臓の好酸球浸潤	
※精神神経系	頭痛、傾眠、情緒不安、不眠、幻覚、めまい、感覚異常(しびれ等)、異夢、易刺激性、痙攣、激越、振戦、夢遊症、失見当識、集中力低下、記憶障害、せん妄、強迫性症状	
呼吸器	肺好酸球増多症	
消化器系	下痢、腹痛、胃不快感、嘔気、胸やけ、嘔吐、便秘、口内炎、消化不良	
肝臓	肝機能異常、AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、Al-P上昇、γ-GTP上昇、総ビリルビン上昇	
筋骨格系	筋痙攣を含む筋痛、関節痛	
その他	口渇、尿潜血、血尿、尿糖、浮腫、倦怠感、白血球数増加、尿蛋白、トリグリセリド上昇、出血傾向(鼻出血、紫斑等)、動悸、頻尿、発熱、脱毛、挫傷、脱力、疲労、遺尿	

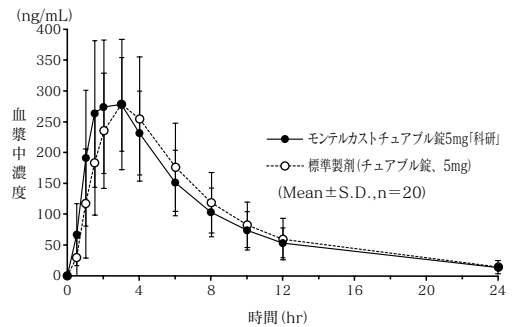
(1)水あり口中で溶かす



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
モンテルカストチュアブル錠5mg「科研」	1991±421	298.89±58.46	2.6±1.1	5.2±0.5
標準製剤(チュアブル錠、5mg)	2047±535	307.96±70.93	2.5±1.0	5.1±0.5

平均±標準偏差(n=20)

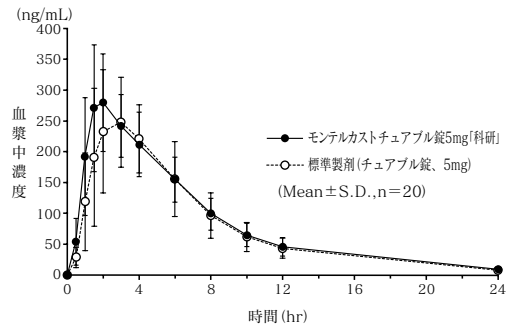
(2)水なし口中で溶かす



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
モンテルカストチュアブル錠5mg「科研」	2186±698	321.76±92.89	2.4±0.8	5.5±0.8
標準製剤(チュアブル錠、5mg)	2245±814	311.97±92.95	2.9±1.0	5.3±0.7

平均±標準偏差(n=20)

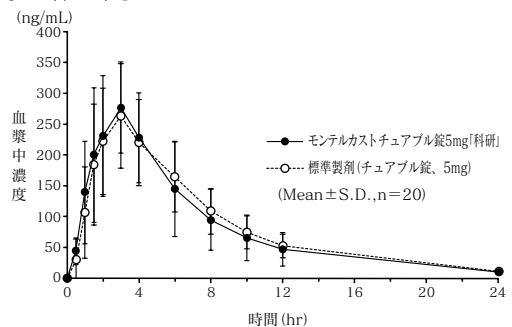
(3)水あり噛み砕き



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
モンテルカストチュアブル錠5mg「科研」	2055±657	323.36±81.58	2.6±1.4	5.2±0.6
標準製剤(チュアブル錠、5mg)	1917±451	296.93±72.17	2.9±1.4	4.9±0.4

平均±標準偏差(n=20)

(4)水なし噛み砕き



4.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。海外の市販後において、妊娠中にモンテルカスト製剤を服用した患者から出生した新生児に先天性四肢奇形がみられたとの報告がある。これらの妊婦のほとんどは妊娠中、他の喘息治療薬も服用していた。モンテルカスト製剤とこれらの事象の因果関係は明らかにされていない。]

(2)授乳中の婦人に投与する場合は慎重に投与すること。

[動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。]

5.小児等への投与

(1)1歳以上6歳未満の小児に対してはモンテルカスト細粒4mgを1日1回就寝前に投与すること。

(2)1歳未満の乳児、新生児、低出生体重児に対するモンテルカスト製剤の安全性は確立していない。

[国内でのモンテルカスト製剤の使用経験がない。]

6.適用上の注意

(1)薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

(2)本剤は、食事の有無にかかわらず投与できる。

7.その他の注意

他社が実施したプラセボ対照臨床試験41試験を対象に統合解析を行った結果、モンテルカスト製剤投与群9,929例中1例において自殺念慮が認められたのに対して、プラセボ群7,780例において自殺念慮は認められなかった。

また、他社が実施したプラセボ対照臨床試験46試験を対象に統合解析を行った結果、行動変化に関連する事象(不眠、易刺激性等)が、モンテルカスト製剤投与群11,673例中319例(2.73%)、プラセボ群8,827例中200例(2.27%)において認められたが、統計学的な有意差は認められなかった。

【薬物動態】

1.生物学的同等性試験¹⁾

健康成人男子にモンテルカストチュアブル錠5mg「科研」と標準製剤のそれぞれ1錠(モンテルカストとして5mg)を、絶食時単回経口投与して血漿中モンテルカスト未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)~log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された(クロスオーバー法)。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
モンテルカストチュアブル錠5mg「科研」	1991±354	306.36±50.27	2.6±0.8	5.2±0.5
標準製剤(チュアブル錠、5mg)	2059±461	298.74±61.17	3.1±1.5	5.2±0.5

平均±標準偏差(n=20)

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出挙動²⁾

モンテルカストチュアブル錠5mg「科研」は、日本薬局方医薬品各条に定められたモンテルカストナトリウムチュアブル錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

【薬効薬理】³⁾

アレルギーのメディエーターの1つであるロイコトリエン(LT)の受容体には、cysLT1受容体とcysLT2受容体があるが、本薬はcysLT1受容体遮断薬であり、気管支喘息に用いられる。

【有効成分に関する理化学的知見】

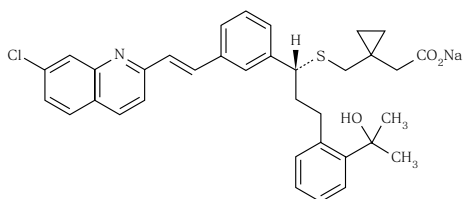
一般名：モンテルカストナトリウム (Montelukast Sodium)

化学名：Monosodium(1-(((1R)-1-{3-[(1E)-2-(7-chloroquinolin-2-yl)ethenyl]phenyl}-3-[2-(1-hydroxy-1-methylethyl)phenyl]propyl)sulfanyl)methyl)cyclopropyl)acetate

分子式：C₃₅H₃₅ClNNaO₃S

分子量：608.17

構造式：



性状：白色～微黄白色の粉末である。

メタノール及びエタノール(99.5)に極めて溶けやすく、水に溶けやすい。

吸湿性である。

光によって黄色に変化する。

【取扱い上の注意】

安定性試験⁴⁾

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、外観、溶出挙動及び含量等は規格の範囲内であり、モンテルカストチュアブル錠5mg「科研」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推定された。

【包装】

モンテルカストチュアブル錠5mg「科研」：(PTP) 28錠、100錠

【主要文献及び文献請求先】

〈主要文献〉

- 1)ダイト株式会社 社内資料(生物学的同等性試験)
- 2)ダイト株式会社 社内資料(溶出挙動)
- 3)第十七改正日本薬局方解説書
- 4)ダイト株式会社 社内資料(安定性試験)

〈文献請求先〉

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

科研製薬株式会社 医薬品情報サービス室
〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8
電話 0120-519-874



発売元
科研製薬株式会社
東京都文京区本駒込2丁目28-8

製造販売元
DAITO ダイト株式会社
富山県富山市八日町326番地

